

昭和二十八年六月十日提出
質問第一〇号

西新井橋、江北橋、堀切橋の建設に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

昭和二十八年六月十日

提出者 天野 公 義

衆議院議長 堤 康次郎殿

西新井橋、江北橋、堀切橋の建設に関する質問主意書

現在荒川放水路上にかかっている西新井橋、江北橋、堀切橋は木橋であり、全く橋の寿命はつきているといわざるを得ない。特にこれらの橋を建設した当時とは異なり、各橋とも附近に数十万の人口を擁し、交通量の多いこと驚異的なものがある。しかも重量物を積んだトラックの交さる場合、橋に余裕はほとんどなく、非常に危険であり、しばしば事故も生じている有様である。たとえば西新井橋の例をとれば、大正十一年四月築造の長木橋で大震災後幾回となく補強し、かろうじて今日命脈を持しているのであるが、放水路以北の急激な発展に伴い交通量は激増している。昨年四月二十二日午前六時より午後六時までの例をみれば、左表のごとくである。

人	三、八六〇
自動車	二、三六七
自転車	一三、〇九四
荷車	六一二

馬車

二二二

リヤカー

七八二

総計

二〇、九二七

一時間平均

一、七三五

一分間平均

二八

昨年四月においてかくのごとき状態であるから、現在においては大型バス、大型トラック等を含めてなお一層の混雑をみているわけである。

政府は、東京都が道路管理者であるとして放置しておくことなく、これが建設改築計画をすみやかに樹立して実行に移し、産業の発展、交通の安全、危険の防止を図る必要があると思うが、政府の見解及び予算的措置如何。

右質問する。